

# 教育だより 第39号 Oct 2023

## 目次

ニュース・イベント	(全体) 教育協力ウィーク 2023 開催！	<a href="#">2</a>
国際動向・国際会議	(全体) GPE Friends of Education 第四回勉強会：PNG における GPE – JICA 連携を公表	<a href="#">2</a>
国際動向・国際会議	(全体) 加藤正寛専門家、田中紳一郎専門員登壇！「乳幼児期の教育とケア」についてのバトウミ国際会議（ジョージア）	<a href="#">3</a>
プロジェクト紹介 基礎教育	(ヨルダン) ヨルダン国で NGO「国境なき子どもたち」による日本式教育「特別活動(特活)」が開始されました！	<a href="#">3</a>
プロジェクト紹介 基礎教育	(ラオス) 草の根技術協力事業（パートナー型）ラオス国「知的・発達障害を持つ子供の社会自立を目指したインクルーシブ教育・就労支援の実践」	<a href="#">5</a>
プロジェクト紹介 基礎教育	(ウズベキスタン) 就学前教育におけるインクルーシブ教育実践強化プロジェクト -現職教員研修の実施と今後に向けて-	<a href="#">6</a>
プロジェクト紹介 高等教育	(インドネシア) インドネシアエンジニアリング教育認定機構 (IABEE) のワシントン協定加盟・JICA プロジェクト終了式典（7月13日）	<a href="#">7</a>
プロジェクト紹介 高等教育	(ホンジュラス) ホンジュラス国「社会経済開発人材育成のためのホンジュラス国立自治大学 修士課程強化プロジェクト」	<a href="#">8</a>
世界で輝く協力隊	(全体) 算数学び隊：日本の算数教育が世界を支える	<a href="#">9</a>
セクター横断・他機関と連携事例	(全体) 「第26回教育セクターにおける JICA・コンサルタント勉強会」開催報告	<a href="#">10</a>
セクター横断・他機関と連携事例	(全体) 直営専門家向けクラスター事業戦略説明会を開催しました	<a href="#">11</a>
KMN 活動報告	(全体) 能力強化研修「障害と開発」実施報告	<a href="#">11</a>
広報・ナレッジマネジメント好事例	(全体) 日本の学習指導要領とエルサルバドルの西語教科書の対照表が完成！	<a href="#">12</a>
リレーエッセイ	(全体) インターンの声	<a href="#">13</a>



「教育協カウィーク2023」は、教育分野の実務者間の情報共有・意見交換・ネットワーク形成等を目的として、9月7日～9日に開催。昨年度の倍以上となる延べ7,534名の方に参加登録をいただきました。

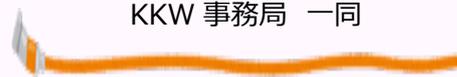
本イベントでは、オープニング/クロージング・テーマ別分科会・サイドイベントの合計22セッションがオンライン/対面で実施され、各セッションでは、所属組織を超えた自由闊達な情報共有・意見交換を通して、教育協力のインパクト最大化に向けた方策の検討や、今後の連携に向けた基盤づくりの場となりました。加えて、本イベント運営事務局が JICA・コンサルタント・NGO 等の若手有志を中心に構成されており、半年間の準備期間を通じ、組織を越えたネットワーク構築に繋がったと考えております。また、今年は新たに英語セッション実施による世界各国からの参加や、休日開催による国内の教育関係者や学生の参加につながる取り組みもなされ、これまで国際教育協力にはあまり関わられてこられなかった有識者や国内の教職員、障害当事者、プロジェクトC/P、在外事務所 NS など国内外からの参加があり、多角的視点での議論が広がられました。今後、当イベントの開催を通じ、より良い教育協力の実現に向け、継続的な議論とともに具体的なアクションに繋がっていききたいと思います。

詳細については、教育協カウィーク特別号をお楽しみに！（10月末公開予定）



キャリアセミナー

KKW 事務局 一同



GPE Friends of Education 第四回勉強会：  
PNG における GPE – JICA 連携を発表

GPE による第四回国際教育協力勉強会：「日本の国際教育協力機関と GPE の連携」が 2023 年 6 月 13 日に開催されました。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 豊田光男氏、JICA PNG 教育政策アドバイザー 木田光二 専門家、GPE Mr. Muhammad Tariq Khan シニア教育専門官が、モンゴル及び PNG における連携事例並びに GPE 資金活用の課題と可能性につき発表しました。

PNG では、JICA 技術協力から始まった算数理科教科書開発が、JICA 無償資金協力と GPE 資金による教科書配布、JICA 技術協力（教員養成課程支援、政策アドバイザー）、文科省による電子指導書作成支援、総務省及び私立大学によるタブレット配布に発展し“All Japan”の支援を実現しています。また、現在実施中の GPE BEST PNG プログラムにもつながりました。JICA は GPE・教育省・開発パートナー間の調整機関である Coordination Agency (CA) を担い、日本のレジリエンスを確保しながら連携による教育開発成果の最大化を意識した支援を実施しています。

人間開発部 基礎教育第二チーム 舘野 直子





2023年6月8日～9日、ジョージアのバトウミにて、国際会議「乳幼児期の教育とケア」（Early Childhood Education and Care: The power of play: the central pillar of Quality ECEC）が開催されました。教育省と関連大学が主催し、JICA や UNICEF と並び会議を共催しました。

2 回目の開催となった今年は、「遊びを通じた学び」をテーマに、11 のセッションと 9 つのワークショップが設けられ、ジョージア国内外から専門家や行政官、政治家、学識者、教員も含めおよそ 300 人が参加しました。

JICA 教育政策アドバイザーとしてジョージアに派遣中の加藤正寛専門家は、本国際会議の企画運営を支援し、また自身もジョージアの就学前教育の現状や課題について発表しました。日本からは、田中紳一郎国際協力専門員がオンラインで登壇し、子ども中心主義に基づく日本の幼児教育の理念、制度、および乳幼児期の全人的な発達を促す「遊びを通じた学び」の実践例を紹介しました。

さらに本会議の成果として、コミュニティ幼稚園などの代替的アプローチを組み込んだ複線的な就学前教育サービス拡充が、地域間、および社会階層間のアクセス格差の是正に必要であると関係者間で合意に至りました。

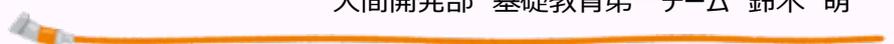
JICA は技術・運営、両面から本会議を支援し、萌芽期にある就学前教育セクターのネットワーキングを後押しするとともに、内外の関係者に JICA の就学前教育支援を理解・支持いただく機会を得ました。

国際会議での成果を受け、ジョージア教育省は JICA、UNICEF などと共に就学前教育における「遊びを通じた学び」の普及、格差是正に向けた自治体への支援などを強化していく予定です。



田中専門員（左側画面）の発表のようす。一番右側は加藤専門家。

人間開発部 基礎教育第一チーム 鈴木 萌



中東で広がる「特別活動」（“特活”）。ヨルダンで長く難民支援活動を行う NGO による、公立学校への特活の取り組み事例をご紹介します。

ヨルダンは周辺国から難民、移民を受け入れており、多様性を受け入れられる人材の育成は喫緊の課題です。国際 NGO「国境なき子どもたち」は、2007 年よりヨルダンで様々な背景を持つ青少年の相互理解・健全育成等の活動に取り組んでおり、教育省と共にヨルダン人、シリア人を対象とした補習授業事業、シリア難民キャンプにおける情操教育事業、JICA 草の根技術協力事業を実施してきました。先行案件の草の根技術協力事業「社会性育成を主眼に置いた特別活動実践と体制構築事業（草の根パートナー型）」（2018 年～2022 年）ではアンマン県公立学校 12 校で“特活”の実践を通じ、シリア難民とヨルダン人の子ども達の双

方に対して他者理解や協調性、規範意識といった社会性を高める取組を行いました。

その結果、対象校では、子どもたちに肯定的な変化（生徒同士が助け合い、協力する場面が増えた、活動内のタスクをやりきることで自信がついた、生徒の暴力/いじめ等について「頻繁に見られる」と回答した教員の割合が2割から1割に減少）が見られました。

2023年1月からは、後継案件としてヨルダン国「特別活動の継続的实施と普及のための基盤整備事業（草の根パートナー型）」を開始。対象をアンマン県公立学校27校、マフラック県ホストコミュニティ公立学校1校、ザアタリ難民キャンプ内公立学校4校に拡大し、“特活”の継続実施や自立的な展開を目指した事業を行っています。

主な活動のコンポーネントは、①“特活”インストラクターの養成およびモニタリング能力の強化、②対象校の保護者の“特活”への参画、③教育省公教育課及び教育局による“特活”普及です。

事業開始後半年が経ち、コンポーネント①については、インストラクター候補教員の選定・養成研修の実施、関係者間のネットワーク構築、教育局や教員用のモニタリングシートを活用したモニタリング実施とフィードバックが行われました。コンポーネント②については、新規対象校のコミュニティや保護者への説明、家庭訪問の実施、保護者による学級会のテーマ説明など保護者の参画もみられました。“特活”に参画した保護者による体験談は、SNS上で共有されています。コンポーネント③については、教育省とのTechnical Committee（「特別活動促進委員会（仮称）」）の定例会議がこれまでに複数回開催されたほか、各教育局とも密に連携し、教育局のFBではその会議の様子が掲載されています。また、教育省内の既存の「低学年スーパーバイザー」や「フリーアクティビティスーパーバイザー」が“特活”インストラクターを兼任できるよう、教育省・教育局との協議が進められています。

平行して実施中の技術プロジェクト「学習環境改善を通じた初等教育退学抑止プロジェクト」では不就学・退学の割合が高い難民児童を含む全ての児童が学習を継続できる学習環境改善を目指しており、上記の草の根事業の学校での活動事例の活用や連携の可能性も検討されています。



アンマンの小学校。終わりの会での日直当番の様子。



夏休みのキャンプの学校で縦割り班活動を試行。異学年間の交流を深めた。



教員対象の特別活動インストラクター養成研修。ロールプレイを取り入れ教員役と生徒役に分かれて学級会への理解を深める。

## <参考情報>

[事業提案書要約 \(jica.go.jp\)](https://jica.go.jp)

● 先行事業 mundi

[学校に子どもたちの居場所をつくる ヨルダン | 広報誌・パンフレット・マンガ・カレンダー・ラジオ | JICAについて - JICA](#)

● 先行事業 好事例 (11/15 ページ)

[PowerPoint プレゼンテーション \(jica.go.jp\)](https://jica.go.jp)

東京センター市民参加協力第二課 平田 さゆり



サバイディー（こんにちは）！

特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会（ADDP）は、現在、ラオスにて「知的・発達障害を持つ子供の社会自立を目指したインクルーシブ教育・就労支援の実践」プロジェクトを実施中です。このプロジェクトでは、教員養成校をカウンターパートとして、インクルーシブ教育指導のできる教員養成校の指導教官の育成を1つの目標としています。インクルーシブ教育指導とは、知的障害、発達障害、聴覚障害、視覚障害等を持つ生徒が、障害をもたない生徒と一緒に教育を受けることができる教授法のことです。

“障害のある子どもも学校に通えるようにしたい”指導教官の子ども達に対する想いと共に、研修の様子をご紹介します。

### 個別教育計画(Individual Education Plan:IEP)とは？

2023年6月、インクルーシブ教育教員養成コース開始準備のために、模擬実習、及び、個別教育計画の作成のためのワークショップ(以下、WS)を実施しました。

個別教育計画の作成は、一人一人「できることと、できないこと」、「得意なことと、苦手なこと」が異なる障害のある子どもたちが学校に通う上で大変大切なものです。個別教育計画には、生年月日や障害の種類といった基本的な情報の他、①現時点でできること、②1 学期終了時の目標、③その学年終了時の目標を書き、そのためにどのような支援が必要か記載します。この記録は、子どもが幼稚園あるいは小学校に入学してから高校を卒業するまで継続し、発達の記録となる大変重要な資料となります。WS では実際にダウン症と脳性麻痺の子ども達と保護者に寄り添いながら、子ども達がどのような支援があれば学校に通うことができるのか、また半年後・一年後の目標等を考え、個別教育計画を作成していきました。

### 「インクルーシブ教育教員養成コース」始動！

2023年8月、サワンナケート県教員養成校において、「インクルーシブ教育教員養成コース」の研修を、現職の小学校・中学校の教員を対象に実施しました。この研修に先立ち、指導教官は 300 時間以上の研修を受講、模擬授業やWSも実施しています。これらの研修を通じて、ラオスで初となる、インクルーシブ教育教員養成コースを指導することのできる指導教官が誕生しました。

近い将来、障害が理由でこれまで小・中学校で教育を受けることができなかった子ども達が、インクルーシブ教育の科目を履修した教員達の下、学校で教育を受けることができるようになることが期待されています。



実際に歩いてもらい、  
障害の状況を一緒に確認。



サワンナケート県教員養成校の実習の様子。





ウズベキスタンは、2021年6月に国連障害者権利条約に批准、10月には「インクルーシブ教育規則」を定め、インクルーシブ教育の導入を積極的に進めています。本プロジェクトは、幼稚園（就学前特別支援教育施設）及び小学校の教員を対象にしたインクルーシブ教育推進のための現職教員研修制度の構築を目指しています。

プロジェクト1年目は、主に現職教員研修の講師として活躍が期待される人材（教員、行政職員、関係機関職員等）約50名を対象に、ウズベキスタンと日本をつなぎハイブリット形式で講師研修（ToT）を実施し、参加者の能力強化を図りました。2年目後半となった現在は、ToT参加者（ワーキンググループ：WG）が中心となって現職教員研修を計画し試行・実施する段階となっています。まず2023年8月に小学校教員向けの研修が実施され、研修項目としてToTの内容から7講義が取り入れられました。WGがこの7講義の準備と実際の講義を担当し、主体性を発揮しています。10月には第2回本邦研修がありますが、ここではWGが日本の特別支援学校を訪問し日本の先生方との対話を通してより実践的な内容を学ぶことに重点を置いています。その後11月に、WGが中心となり幼稚園教員を対象にした現職教員研修を計画・試行する予定です。

現職教員研修が対象としている一般の小学校教員は、過去に障害のある子どもを教えた経験がほとんどない一方で、幼稚園（就学前特別支援教育施設）の教員は基本的な専門知識を備えているという違いがあります。プロジェクトではこの特徴を前提に、WGや教員のフォローアップを行いながら、研修プログラムや研修教材、評価ツール等の開発・改良について助言していきます。最終年となる3年目には、再度1回ずつの現職教員研修を実施し、WGのさらなる能力強化と現職教員研修の充実・定着を図りたいと考えています。



現職教員研修に向けた講師研修  
（ToT）の実施（2022年10月）



日本人専門家による小学校インクルーシブ  
クラスのモニタリング（2022年11月）



第1回本邦研修：大阪府立光陽支援  
学校訪問（2022年12月）



第3回JCC開催（2023年2月）



日本からの学びを実践（障害のある幼児のための  
ビジュアルタイムテーブル作成）している教員（2023年2月）



インドネシアの高等教育は、経済成長に伴い進学者が増え続けている一方で、高等教育の急激な量的拡大に伴う質の確保の問題や、社会のニーズに即した人材を育成できていない課題がありました。そこで JICA は、一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)とともに、2014年よりインドネシアエンジニアリング教育認定機構(IABEE)設立を支援してきました。エンジニアリング教育には技術者教育の実質的同等性を相互承認するための国際協定であるワシントン協定があることから、JICA プロジェクトでは IABEE のワシントン協定加盟を目指し、認定基準の設定や教育の評価を行う人材の育成を行ってきました。このプロジェクトは2014年に始まりましたが、途中でコロナ禍に伴うワシントン協定加盟のルール変更などがあり、最終的には延長期間を含めて約9年に及ぶ長期プロジェクトとなりました。

2023年7月13日には IABEE のワシントン協定加盟と JICA プロジェクトの完了を祝う式典が開催されました。式典には IABEE の母体となるインドネシア教育・文化・研究・技術省高等教育・研究・技術総局のニザム総局長、インドネシア技術士会のスマディラガ会長、IABEE のロムリ国際委員長、日本大使館の田村公使、JICA インドネシア事務所の安井所長、本プロジェクトのチーフアドバイザーの青島 JABEE 顧問、インドネシアの大学・教育関係者約150名が出席しました。青島チーフアドバイザーからの活動報告の他、IABEE の認定を受けた大学の関係者も多く参加しました。また、多くのメディアからの取材も受け、複数の現地メディアで報道されました。

プロジェクトは終了しましたが、プロジェクトで構築された教育の質保証・認定の仕組みにより、インドネシアのエンジニアリング教育が社会のニーズに応えられるように日々改善され、ワシントン協定加盟国の教育レベルと実質的に同等であることが国際社会に認知されていくこと、そして、そこで教育を受けた学生がインドネシア国外で活躍していくことが期待されています。



青島チーフアドバイザーとニザム総局長



IABEE 認定取得大学関係者との記念撮影



IABEE による記者会見の様子

人間開発部 高等教育・社会保障グループ 課長 岩崎 昭宏



本プロジェクトは、ホンジュラス国立自治大学（UNAH）において修士課程「国際協力と開発プロジェクト運営管理」（MCIGPD）のカリキュラムを再構成し、関係者のマネジメント能力の強化および、外部組織との研究交流を促進することにより、同国における社会経済開発事業を担う人材育成の改善を図り、同事業の効果的・効率的な実施に資する人材の輩出に寄与することを旨として実施しています。2021年2月から2025年2月（予定）において、株式会社コーエイリサーチ&コンサルティングおよび上智大学のJVで実施しています。

2023年8月には、プロジェクトメンバーである植木安弘教授（上智大学）、幡谷則子教授（上智大学）、佐崎淳子特任教授（上智大学）、狐崎知己教授（専修大学）および株式会社コーエイリサーチ&コンサルティングのコンサルタントらが現地を訪れ、下記の業務を中心に従事しました。

#### 【① 交流講義の実施】

8月14日には幡谷先生による連帯経済に関する講義、8月15日～16日には狐崎先生によるゲーム理論等の社会経済分析やローカルガバナンスに関する理論・政策・実践例についての講義を行いました。MCIGPDの第3期大学院生ならびにUNAH側教員が参加し、日本の大学教員との活発な議論が交わされました。

#### 【② FOCAL プロジェクト現場訪問（事例研究・学生によるプロジェクト視察）】

8月17日～20日にかけて下記2つを目的として、JICAが実施した「西部地域・開発能力強化プロジェクト（FOCAL）」の視察を行うため、コパン県を訪問しました。（現在同プロジェクトは「SDGsに資する参加型自治体計画改善プロジェクト」としてフェーズ4が実施中。今回はフェーズ1の対象サイトであるイギート市を中心に訪問しました。）

- プロジェクトで提案したMCIGPDの新カリキュラムで活用しうる事例研究教材（講義における題材や、卒業研究素材として検討中）の作成に向けた情報収集
- MCIGPD学生によるプロジェクト視察の実施（第3期生31名中17名の学生が参加）

#### 【③ 卒業研究指導支援】

MCIGPDでは、卒業研究を実施できず講義等の課程単位は取得するものの、卒業論文作成に取り組むことができずに修士号を取得できない学生が相当数いることが課題となっています。そこでプロジェクトが作成した新カリキュラムでは、入学直後から卒業研究指導を行い、全ての学生が卒業研究を提出して修士号を得られるようなことを目指しています。現行のMCIGPD第3期では旧カリキュラムで課程が進められていますが、第4期で導入見込みである新カリキュラムでの卒業研究指導試行を目的として、8月21日～25日にかけて、MCIGPD第3期生に対する卒業研究発表・指導を行いました。



① 交流講義実施の様子



② 現場訪問の様子



③ 卒業研究指導支援の様子

上智大学グローバル・スタディーズ研究科 教授 植木安弘  
株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング コンサルタント 宮本健太



2022年9月に発足した「算数学び隊」は、日本の算数・数学教育の強みを活かし、JICA本部とJICA海外協力隊が連携して途上国の教育の質向上を目指す活動です。JICAがこれまで実施した教育協力の成果や本部・隊員が作成した教材の共有などを行っています。2023年8月時点で小学校教育や理数科教育隊員、23カ国延べ62名（うち現在47名）の有志隊員が参加しています。

今年度はこれまでに、JICA本部や隊員同士の交流会をアジア・大洋州、中南米、アフリカの3地域ごとに行い、JICA国際協力専門員による勉強会やそれぞれの活動の成果報告、課題共有を通して積極的に情報交換をしています。

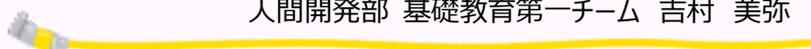
対象地域	実施内容	実施テーマ
アジア・大洋州地域	<a href="#">又地淳専門員</a> による勉強会	CD（キャパシティ・デベロップメント）と教員研修
中南米地域	<a href="#">西方憲広専門員</a> による勉強会	0から始めない隊員活動
アフリカ地域	隊員・本部主催意見交換会	算数学び隊員一人ひとりの活動の悩みにこたえよう会

今後も算数学び隊は途上国の学校現場に根差した算数教育支援を目指し、隊員間の繋がりを広げながらJICA本部と連携し活動を進めていきます。



(アフリカ地域向け：隊員・本部主催意見交換会の様子)

人間開発部 基礎教育第一チーム 吉村 美弥





6月15日（木）、「第26回教育セクターにおける JICA・コンサルタント勉強会」が開催されました。JICA 職員と開発コンサルタント合わせて約 80 名が参加しました。構成は以下の通りです。

パート	時間	内容	担当
基礎教育説明	14:00～14:10	開会挨拶	JICA人間開発部
	14:10～14:35	①基礎教育におけるJICA 方針説明 (今後の対応方針・公示情報等) ②クラスターペーパー説明 ・教科書開発クラスター ・コミュニティ協働型クラスター	JICA人間開発部 基礎教育G小林グループ長
基礎教育 ディスカッション	14:35～15:15	グループディスカッション	アイ・シー・ネット
	15:15～15:55	協議事項整理・質疑応答	基礎教育G小林グループ長 など
	15:55～16:00	休憩	
高等教育説明	16:00～16:10	高等教育におけるJICA 方針説明 (今後の対応方針・公示情報等)	JICA人間開発部 高等教育G上田グループ長
	16:10-16:30	ソーシャル・スタートアップ・ラボの取 組方針 ～日本の大学と連携した途上国 人材の社会的起業の支援に向けて～	ガバナンス・平和構築部計 画・課題戦略推進課 田中様
	16:30-17:00	質疑応答	
	17:00-17:10	閉会挨拶	アイ・シー・ネット

基礎教育セッションでは、JICA より今年度の重点分野などの JICA 対応方針の説明後、「教科書・教材開発を中心とした学びの改善クラスター」と「コミュニティ協働型教育改善クラスター」に係るクラスターペーパーの説明を行い、**クラスターペーパーに関連して、「実践上の課題・難しさ」・「実践するにあたっての（前向きな）提案」**をテーマに、少人数グループに分かれて意見交換を行いました。

高等教育セッションにおいても、基礎教育セッション同様、冒頭に JICA より対応方針説明を行いました。その後、「**ソーシャル・スタートアップ・ラボの取組方針～日本の大学と連携した途上国人材の社会的企業の支援に向けて～**」に関して説明を行い、質疑応答で意見交換を行いました。

具体的に、基礎教育セッションでは、子ども一人ひとりへの教科書配布の難しさや、みんなの学校が平和構築や栄養改善など様々な課題解決にも効果的であることのエビデンス・パスを示すのが難しい等の意見もある一方で、限られたプロジェクト期間や投入の中での、それぞれの介入での成果や成功例を共有していくことが重要という意見もあり、それぞれのより質の高い教育協力に向けて、活発な議論が行われました。

高等教育セッションでは、産学連携に関するセクター横断的取り組みとして、ガバナンス・平和構築部で検討を進めている、シード期におけるスタートアップ支援について、留学生や本邦大学、研究機関、企業・起業家、自治体等と連携した「ソーシャル・スタートアップラボ」の構想についてご説明いただき、意見交換を行いました。

引き続き、今回の議論内容を踏まえ、質の高い教育協力の実現に向けて、JICA と開発コンサルタントは互いに協力し合い、活動していきたいと思えます。

人間開発部 基礎教育第一チーム 林 研吾





## 直営専門家向けクラスター事業戦略説明会を開催しました

基礎教育グループでは7月12日、クラスター事業戦略説明会を開催しました。本説明会は JICA 事業を担当する専門家とクラスターに関して共通認識を形成することを目的に、40 名程度の方にご参加いただきました。小林次長による各クラスターの概要に関する説明の後、又地専門員・西方専門員・國枝専門員よりロジックの補足説明を行い、「教科書教材開発を中心とした教育改善クラスター」についてエチオピア関口専門家は MUST プロジェクトの事例をもとに学びの改善モデルの現地化を、ガーナ大島専門家は算数の授業法改善を、「コミュニティ協働型教育改善クラスター」についてエチオピア中澤専門家は各国の共通点と相違点からみる課題を、マダガスカル森本専門家はみんなの学校で工夫した点を、それぞれ発表いただきました。

今後このような機会を通じて専門家と意見交換しながら現場でのクラスターの実践の推進を関係者で一丸となって進めていければと思います。

人間開発部 基礎教育第二チーム 九川 礼衣



## 能力強化研修「障害と開発」実施報告

2023年7月5日（水）から11日（火）までの5日間、能力強化研修「障害と開発」がオンラインにて実施されました。JICA 関係者のみならず、コンサルタントや国際 NGO、国内の教育や福祉関係者など総勢 50 名が参加し、充実した学びの場となりました。

例年同様、久野専門員による講義やオンライン上でのグループディスカッションに加え、外部講師によるインクルーシブ教育やアクセシビリティ、障害者就労などの各テーマに基づく講義を通し、様々な視点から障害について向き合い深く考える5日間となりました。

最終日には過去に当研修を受講した3名が講師として登壇し、当研修を受講後に実際に業務の中で障害主流化に取り組んだ事例の発表がなされました。過去の受講者の実践例に今年度の受講者も大いに影響を受けたようで、「身近なところから障害の主流化に取り組めることを学び視点の転換になりました」といった声が寄せられました。

また今年度は初の取り組みとして、「時差の合理的配慮」を実施しました。オンラインにより海外からの受講も可能となる一方、時差が大きい地域では連日の受講が負担となるという点を考慮して始めた取り組みです。海外在住者に対しては録画視聴による受講を認めると共に、海外在住者のためのディスカッションの機会も設けることで、時差があってもリアルタイムの受講者と同等の学びを得ることができたと考えられます。受講者からも「時差対応して頂き、本当に有難かったです」等の高評価が得られました。

現在は11月2日（木）と来年1月9日（火）に開催予定のフォローアップ研修に向けて準備を進めているところです。フォローアップ研修は過去の本研修の全修了生を対象としており、障害主流化の実践例の共有や障害当事者との対話により、「障害と開発」についての学びをさらに深めつつ、この分野に関心がある方々の繋がりを作ることも目的としています。来年度も研修実施を予定していますのでご興味がある方はご参加をご検討ください！

人間開発部 社会保障チーム 川浦 千晶



この度、JICA ウェブサイトにて、日本の学習指導要領とエルサルバドルの教科書の対照表が掲載されました！

[日本の教科書と西語教科書の対照表（動画付き）](#)

JICA は、エルサルバドルでの技術協カプロジェクト「初中等教育算数・数学指導力向上プロジェクト（ESMATE）（2015年～2019年）」を通じて、1年生から12年生までの算数・数学教科書が開発されました。JICA 人間開発部では、これらを日本国内で学ぶスペイン語を母語とした子ども達の教科学習にも活用されるような取り組みを進めています。これは、数学的思考力を含む認知能力は複数言語をまたいで共通するという二言語基底共有説に基づくものであり、日本語より母語が得意な子ども達が日本の学校で学習する単元の内容をスペイン語の教材を用いて予習・復習することで、日本の学校での算数・数学学習の理解促進を図るものです。これまでの試行過程において、スペイン語教材の有効性はあるものの、使用の際に該当する単元のページを見つけにくいという声もいただいておりますので、この度、学習者が家庭学習等において、学校での学習単元の該当ページを素早く簡単に見つけられるよう対照表を作成しました。さらに、各単元に紐づいた学習のポイント説明動画のリンクを付し、各単元の内容をより理解しやすくする工夫をしました。

学校でもスペイン語を母語とした子ども達の学習支援に携わる方々、教員の方々など関係者の皆様に、対照表も利用しながらスペイン語教科書をぜひ活用いただければと思います。

● **エルサルバドル：初中等教育算数数学指導力向上プロジェクト（スペイン語）**

**小学1年生**

- [スペイン語算数・数学教材の使用にあたって（PDF/595KB）](#)
- [【概要】日本の教科書と西語教科書の対照表（PDF/877KB）](#)
- [【詳細】日本の教科書と西語教科書の対照表（動画付き）（PDF/382KB）](#)



日本の教科書	エルサルバドルの教科書	エルサルバドルの教科書	動画	動画ページ	対照表ページ	日本の教科書
単元名	単元名と授業名	Unidad y Clase	学習指導要領 / Ejemplo de contenido	Video	Programa de estudio / Programa de trabajo	単元名 / Año de estudio en español
数の数し方	1. 10,000までの数	Unidad 1. Números hasta 10,000	-	-	7	21
Representación de números	1.1 算盤	1.1 Práctica lo aprendido	-	-	8	28
	1.2 千の位までの数の書き	1.2 Escritura y lectura de unidades de mil	1000,2000,3000...	●	9	28
	1.3 万の位までの数の書き	1.3 Escritura y lectura de números de cuatro cifras: del cero	2,364	●	10	30
	1.4 0を数に4桁の数の書き	1.4 Escritura y lectura de números de cuatro cifras con ceros	3045	●	11	32
2.1 4桁の数も位ごとの数値の形で書く	2.1 Representación de número de cuatro cifras en forma desarrollada	5450 → 5 unidades de millar, 4 centenas, 7 decenas y 3 unidades	●	12	34	

人間開発部 基礎教育第一チーム 吉村 美弥

## 【JICA インターンシップでの学び】

インターンシップに参加させていただきました、広島大学大学院の遠藤悠華です。インターンを通し、大きく3点の経験・学びを得ることができました。1点目は、案件の裏側を知ることができたことです。開始前の案件の計画・調査内容のご説明を受け、「選ばなかった選択肢」についてもお話いただきました。報告書だけでは分からない事業の裏側を知ることができて感動しました。2点目は、生の声を聞いたことです。海外から研修員がいらっしゃるインクルーシブ教育研修（小学校視察）に同行しました。その中で、日本のインクルーシブ教育や掃除・給食当番などについてどう感じるかを教えていただき、日本の教育の良さについて客観的に知ることができて、興味深かったです。3点目は、人とのつながりの重要性です。教育協力ウィークの中で、登壇者の皆様のご経験を共有されている姿を見て、国も分野も幅広い国際協力の世界では、知識を交換して協力することが大切で、そのためにも人とのつながりが欠かせないと実感しました。最後に、お世話になりました JICA 職員の皆様、関わってくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。



（教育協力ウィーク算数セッションにて、登壇者の皆様 / JICA 職員の皆様との一枚）

人間開発部 基礎教育第一チームインターン 遠藤 悠華

## 【JICA で実務の視点から学んだ国際協力という道】

人間開発部基礎教育グループでインターンをしておりまして、東京外国語大学フランス語科4年の穴戸真生です。3年次にはパリ政治学院に1年間留学をし、これまで日本とフランスの大学で移民、難民、教育、国際関係等幅広く学んできました。

インターン期間中は、教育協力ウィークの運営を主な業務としながら、JICA の教育開発事業について幅広く学びました。マダガスカル、セネガル在外事務所のナショナルスタッフの方とお話する機会では、これまで学んできたフランス語を活かすことができ、言語で世界と繋がれることの素晴らしさを実感しました。

また、課題別研修で早稲田大学までご同行させていただいた際は、インクルーシブ教育の最先端で今何が起きているのかを黒田先生から学び、世界各国からの研修員の方々の熱い議論に圧倒されました。そして、インターンの最後に行ったマダガスカルにおける JICA の教育事業に関する発表では、準備の段階で専門員の方に何度もご相談しながら事業に関する理解を深め、お話を伺う中で少しでも現場の肌感覚を追体験できたように思います。

「国際協力を通じ一人でも多くの人を助ける」という自分自身の大きな目標に向かう中で、JICA でのインターンは、将来現場で働くことを見据えながら私自身の研究に欠けていた現場の視点を学ぶ貴重な機会となりました。特に、専門分野に関連する仏語圏アフリカでの事業に携わる方のお話を聞く機会を沢山頂き、アフリカという大地の美しさ・素晴らしさと、そこで国々が抱える厳しい現実を目の当たりにしました。そんな中で長年情熱をもって課題解決に取り組まれている方々に私自身も心打たれ、いつか私も同じように働き

たいと思い、大きく背中を押されました。

改めましてインターンでお世話になりました皆様、ありがとうございました。



人間開発部 基礎教育第一チームインターン 穴戸 真生

### 【国際協力の最前線に触れて】

8月1日から28日までの約1ヶ月間お世話になりました。インターンの業務としては、高等教育チームの行っている案件から自身で課題となるテーマを見つけ、調査・分析を行い、発表をしました。調査の段階では、文献調査の他に専門家や現の教員の方にもお話を伺う、大変貴重な機会を得ることができました。

自身はこれまで、国際協力地大学に携わりたいと考えておりましたが、携わる手段が分かっておりませんでした。今回のインターンでは、様々な部署・年齢層の方にインタビューすることができました。この経験を通じて、自分のキャリアプランに対する視野が広まったように感じます。

私の専門は化学です。一見、国際協力分野には関係のない分野です。しかし、この専門を生かせる道があるのを知れたこと、これが本インターンシップでの一番の収穫であると考えております。

高等教育チームの皆様をはじめ、協力していただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



専門家の方にお話を伺いに行ったときに撮った写真  
暑い中ありがとうございました！

人間開発部 高等教育チームインターン

東京工業大学理学院化学系化学コース修士一年 相本美咲

### 【インターンシップでの学び】

本インターンでは、特に国際協力の実現過程への理解を深められたと感じています。皆様の業務を間近に拝見したり、専門家の方々にお話を伺ったりしたことで、JICA 事業には多くの関係者が互いに強みを活かして連携していることを学びました。例えば E-JUST 国別研修成果発表会では、本邦大学や日本企業等多くのアクターが、研修中にそれぞれ教授法やデータ収集等の知見を研修員に共有していることを実感しました。またプロジェクト会議への参加では、現地のニーズを把握した専門家や在外事務所の方、工学や教育に専門性を持つ本邦大学の教授、そして全ての意見を踏まえ案件を形成する JICA 職員の方のそれぞれの働きかけが国際協力を実現させていることを学びました。これらから、私も将来、自分の強みを活かした働きを通して世界の役に立つ仕事がしたいという思いが強まりました。最後になりましたが、今回高等・技術教育チームにて受け入れてくださったことに、心より感謝申し上げます。



高等・技術教育チームの皆様と

人間開発部 高等・技術教育チームインターン  
カールトン大学 学部 1 年 小崎 真乃香

#### 【編集後記】

今年で 3 回目を迎えた教育協カウィーク。毎年、10 月発行の「教育だより」は教育協カウィークの記事がいっぱいなのに今年  
はひとつだけ。どうしたのかと思われる方もいらっしゃるかもしれません。今年の教育協カウィークは、さらに多様な関係者に関わっ  
ていただき、そして各セッションの内容もさらに充実して、大いに盛り上がった 3 日間となりました。ですので、今年は「教育だより」  
も特別号を発刊して、そちらは教育協カウィーク一色で、まもなく皆さんの手元にも届く予定です。「教育だより」を読まれている  
皆さんの中にも、参加された方も多いかと思います。特別号も楽しみにお待ちください。

教育協カウィークの記事は一つでも、今回の「教育だより」は盛りだくさんです。コンサルタントの皆さんとの勉強会、スペイン語教  
材の国内での活用に向けた取り組み、協力隊の皆さんとの活動、新たな国際協力の担い手となる皆さんに向けた能力強化研  
修、インターン生の声など、新たな皆さんとのつながりを感じる号となりました。さまざまな形で、教育協力の輪が広がっていけばと  
願っています。

人間開発部 基礎教育第一チーム 課長 中条 典彦

#### 「教育ナレッジマネジメントネットワーク (KMN) 」とは

JICA 教育ナレッジマネジメントネットワーク(KMN)は、JICA の教育協力事業の質向上を目標に、JICA の教育協力に関する知見や経験を一元的に  
蓄積し、事業に活かすとともに対外的に発信するために、人間開発部を中心に活動を行っています。具体的には、①戦略（事業戦略、ドナー連携等）、  
②ナレッジの創造（プロジェクト研究、インパクト評価等）、③ナレッジの共有（民間・大学とのネットワーキング）、④広報（ナレッジの蓄積・発信）等の  
活動を実施しています。「教育だより」では、こうした教育 KMN の取組のほか、教育協力に関わる国際的な動向や実施中の案件情報等をあわせてお伝え  
していきます。教育 KMN および JICA 基礎教育、高等・技術教育、社会保障グループからの各種お知らせを希望の方は、

(1)名前、(2)ふりがな、(3)所属、(4)役職、(5)職業、(6)E メールアドレスを明記のうえ、kadaishien-ningen@jica.go.jp までお送りください。